

着mono通信

yoroduya

2026・2
vol.89



よろづ屋

着物・和のこと Salon

原町本店
〒975-0003
南相馬市原町区栄町2-83
TEL: 0244-24-2929

いわき店
〒970-8026
いわき市平三倉69-8 第2地産ビル1F
TEL: 0246-85-5298

みなさんこんにちは！2月になりましたね～雪は降らないまでも、風が冷たくて毎日寒いです。さて、いわき店を2月よりリニューアルいたしました！商品ラインナップも増えて、リユース着物の販売も復活いたしました。以前のように委託でのお引き取りや買取はおこなっておりませんが、女将が厳選して仕入れてきたリユース品が並びました。仕入れたリユース品は、丸洗い・消臭し、採寸・点検をおこなってシミなどを細かくチェックいたします。着物は細かいサイズを明記しての販売となります。お着物初心者の方でもお気軽に足を運んでいただけるような商品も取り揃え、皆様のご来店を心より楽しみにしております。今月も寒さに負けず頑張ってみましょう～！！

<東京キモノショー2026>

日程：2026年4月17日（金）～19日（日）

会場：東京都中央区日本橋人形町問屋街界隈にて
メイン会場5会場・サテライト会場23会場

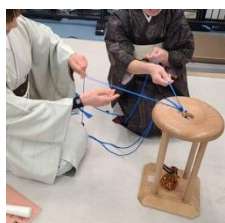


東京キモノショー主要4会場への入場は入場券が必要になります。サテライト会場については入場無料です。入場券一枚でどこでも何度でもご入場になれます。東京キモノショーのコンテンツが三日間楽しめて、お一人様、前売り1,500円、当日入場券2,000円です。
前売り券販売開始2026年2月20日10:00より。

今年も東京着物ショーが開催されます！よろづ屋は「キモノスタイル」に参加して、コーディネート展览展示いたします。昨年もたくさんの着物好きの方が日本橋の街並みを彩りました！前売りチケットなどは当店でもお買い求めいただけます。2月20日よりチケット販売、プログラムの配布をいたします！



昨年のキモノスタイルの様子です。写真右がよろづ屋のコーディネートです。



♪ 和のことサロン ♪

- ・はた織り教室（原町本店）
2月は12日（木）、13日（金）、14日（土）の予定です。
詳しい時間についてはお問い合わせください。
- ・つまみ細工教室 2月26日（木）14:00～16:00

お問い合わせは原町本店まで 0244-24-2929

- ・組紐教室についてはいわき店までお問い合わせください。
0246-85-5298

< お客様コーディネート紹介コーナー >

当店のInstagramやFacebookなどで紹介させていただいております、お客様のコーディネートはこちらのコーナーでもご紹介します！

帛撰の網代織の御召しに印伝の八寸帯。黄色と紫の補色使いでキリッとした印象に。帯締めめのグリーンが差し色になっています。印伝の帯の柄が素敵です。



グレーの色無地に花柄の引箔の帯。格調高い装いながらも小物使いでシンプルコーデに。帯締めが帯と調和し帯揚げの色使いが際立っています。



黒地に飛び柄の小紋に、葡萄唐草模様の袋帯。全体が同系色でまとまっています。帯の柄の葡萄色に合わせた帯締めが、全体のトーンを引き締めています。



小紋に名古屋帯のカジュアルコーデ。落ち着いた色合いで統一されています。グレーの帯締めと黄色の帯揚げの色使いが華やかさを演出しています。

<きもの語 辞典>ほの巻

着物に関して、わからない言葉や知りたい言葉などたくさんあると思います。専門用語が飛び交う中で??に思うことも多々ありますよね。そんな着物にまつわる言葉を集めて簡単にご紹介していくコーナーです。

<防染糊（ぼうせんのり）> 友禅染や小紋の型染めなどで、色が入ってほしくない部分が染まらないよう防染のために置く糊のこと。染め方のより、型置き、筒描き、糸目糊、伏せ糊、撒き糊などがあります。

<ぼかし染め> 濃い色から淡い色へとグラデーションを付ける染色法。パターンとして、上の方は淡く、裾にかけて濃くなるものを「裾濃（すそご）」。上の方は濃く、裾にかけて淡くなるものを「曙」といいます。

<本袋帯（ほんぶくろおび）> 袋帯の一つで手先からたれ先まで、表地と裏地とが一枚の生地で筒状に織られている帯地のこと。「本袋」ともいいます。縫い合わせて袋状に仕立てたものではなく、織る時点で袋状に作られています。

<きもの歳時記>

～知って楽しい和の知識～
京都手描き友禅の世界



京都の手描き友禅は、白い絹の生地に職人が筆で直接文様を描き、染め上げていく京都を代表する伝統的な染色技法です。

まず米糊を使って模様の輪郭線（糸目）を引き、その内側に一色ずつ丁寧に色を挿していくこと

で、染料のにじみを防ぎながら、繊細な線描写や柔らかなぼかし、重なり合う色の深みを表現します。この手仕事ならではの絵画的な表現力が、手描き友禅最大の魅力です。下絵、糸目、色挿し、蒸し、水洗いといった多くの工程を分業で行い、染匠の監修のもとで完成します。

こうして生み出される京都の手描き友禅には、日本の美意識が凝縮された染色文化として大切に受け継がれています。

原町本店では、2月19日（木）から21日（土）まで「工芸染匠成謙展」を開催いたします。

友禅の雅な世界をお楽しみください。



・・・女将のつぶやき・・・

炒飯大好き女将は最近では行く先々で炒飯を食べる炒飯地方巡業をしています。どこの地域でも大概は美味しい炒飯にありつけますが、たまにひどいものもあります（笑）炒飯は中華料理店のものと、食堂のものとで微妙に違うのですが、どちらも捨てがたい。シンプルな炒飯が好きなので、具材はチャーシュー、ネギ、卵で十分です。食堂のでかまぼこと入ってるのも大好きです。どこに行っても炒飯を食べているわけですが、なんだかんだと地元で食べられる炒飯が一番好きです♡ちなみに中華屋さんなら「福来臨」食堂なら「みなとや」が好き！ちなみに写真の炒飯は、日本橋の「六さん」です👍

